

部会・委員会報告

〈医用画像システム部会〉

DICOM Standards Committee (DSC) 会議参加報告



DICOM 委員会 委員長 鈴木 真人 (東芝メディカルシステムズ(株))

RSNA2007会期中に開催された DICOM Standards Committee (DSC) 会議に参加したので、以下にその概要と感想を報告する。

DSC とは DICOM 規格を取り仕切っている最高議決機関であり独立した組織ではあるが、NEMA (National Electrical Manufacturers Association : 米国電気機器製造者協会) がその運営と成果物の管理に関して全面的に協力をしている。

DICOM 委員会は JIRA 代表として DSC に継続的に出席しており、今回も JIRA 国内活動進捗報告と ISO/TC215リエゾン (派遣代表) 報告を行った。また、2009年アジア地区での DSC 開催が日本に決定した。

以下に会議内容と、今後 JIRA として推進しなければならない項目と会員企業各位に協力をお願いしたい課題を述べる。

文中の WG や MITA (Medical Imaging and Technology Association) 事務局の構成・組織などについては、JIRA 会報181号を参照されたい。

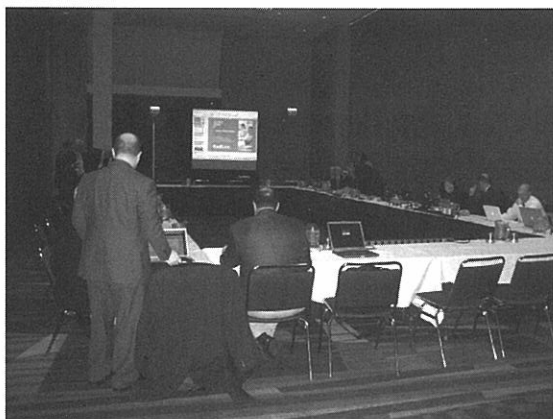
なお、本報告作成にあたっては、関係各位のアドバイスも参考としている。

日時：2007年11月29日 9時-17時に開催された。

場所：米国シカゴ マコーミックプレイス S103D 会議室

出席者：ベンダ13社18名、ユーザ 8 団体12名、関連団体 2 団体 5 名

・日本からは関連団体として JIRA が登録されており、JIRA 鈴木と事務局芋川部長と中島 DICOM 委員会副委員長 (株)日立メディコ) が投票権を持った正式メンバーとして出席した。ベンダーとして吉村仁氏 (コニカミノルタエムジー(株) : 医用画像システム部会長) が参加した。



議事：議事録からの抜粋は以下のとおりである。

1. 出席者確認と前回議事録確認（2007年6月29日ベルリン）担当：MITA 事務局
問題なく承認された
2. RadLex 現状報告 担当：Curtis Langlotz
RadLex は放射線科の情報資源を均一に扱う事や臨床でのコミュニケーションを促進させる事を目的に統一された用語約12,000語を定義中であり、臨床画像診断環境を改善する共通情報要素として注目されている。分科会の報告では順調に作業が進んでいるとの事。
3. DSC 新規メンバーの検討 担当：MITA 事務局
European Society of Radiology (ESR)：承認された。
India Centre for Development of Advanced Computing：承認された。
China Institute of DICOM：団体名が不適切と思われる点、及び添付書類の不備により再検討することとなった。
4. WG 新規メンバーの検討 担当：MITA 事務局
WG-6 に Innovation Center for Computer Assisted Surgery (ICCAS：ライプツィヒ、ドイツ) の参加希望：承認された。
5. 主な規格修正進捗の報告 担当：MITA 事務局
最近投票した Supp. (Supplement：補遺) と Cp. (Correction Proposal：DICOM 規格の追加や変更) がいつ規格に反映される予定であるかの説明があった。
6. DICOM 規格の XML 表記 担当：David Clunie
XML (eXtended Markup Language) を採用することはほぼ決まりだが、図や表の表記について SVG (Scalable Vector Graphics) フォーマットが提案された。実績もあり特に反対なく承認された。
7. WG の新規検討項目検討 担当：各 WG
WG-6：外部規格を参照している定義語や値を用いているタグを定義するリストの追加（現状存在しない）の件が承認された。
WG-12：小児&胎児エコーレポートの定義（現状存在しない）の件が承認された。
WG-16：フルカラー MR 画像の定義 (UL ドップラー画像に近い SC 画像) の件が承認された。
8. DICOM 規格の自由な使用／配布を明示した文面の多国語表記 担当：NEMA 法規部
表題のような趣旨の文面を規格自体に追加したいとの意向であった。
文面や何ヶ国語を追加するのかなど Executive Committee (上級委員会) に諮問することとなった。
9. Web Service 紹介 担当：WG-10
WG-10から DICOM 規格における Web Service の利用法などの説明があった。
10. 各国報告
JIRA (日本)：前回会議（6月）からの国内進捗を報告した。
今回の報告は日本の JIRA からだけで他の団体からの報告はなかった。
JIRA 報告内容は下記項目の通り
 1. DICOM 委員会が JJ1017委員会と ISO 委員会を吸収した組織変更の説明

2. 今年度各地での講演会・ワークショップの実績紹介
 3. DICOM 規格の日本語翻訳の現状と新規翻訳案件の説明
 4. JIRA として会員に ftp サーバーを提供開始する件の紹介
 5. JJ1017 (既に DICOM に織り込み済み) のバージョンアップ (拡張) 作業の説明
 6. コネクタソン (北米、欧州、日本) 参加状況説明
 7. 2009年度アジア地区 DSC 開催国表明
11. 国際規格団体報告
- IHE : RSNA にてデモ中。PDI (Portable Data for Imaging = 可搬型画像データ交換) の普及の為にメディアを含め、詳細に規格制定することが必要と思われる。
- ISO/TC215 : ISO/CEN/HL 7 で WG-9 を作り医用規格作成プロセスの母体とすることが決まった。ここに DSC が呼ばれるようになれば両者間の意思疎通が速くなることが期待される。
12. DICOM 規格促進コミッティ 担当 : Charles Parisot
上記コミッティの方針や予定の説明があった。
13. 次回 DICOM カンファレンス開催予定 担当 : MITA 事務局
中国 成都 2008年4月8-12日 現在投稿40件、口頭発表16件の応募がある。
4月8日セミナー、4月9日から10日に International Conference and Seminar、4月11日 DSC、4月12日は Sightseeing の予定となっている。Conference and Seminar の参加者会費低減の為に MITA は企業・団体へ資金協力を呼びかけている。
14. 今後の DSC 開催予定確認 担当 : MITA 事務局
- | | |
|------------|--------------------------------|
| 2008年4月11日 | Chengdu, China (中国、成都) |
| 2008年9月5日 | Munich, Germany (ドイツ、ミュンヘン) |
| 2008年12月4日 | Chicago, US RSNA (米国、シカゴ RSNA) |
| 2009年 春 | Japan (後述) |

検討項目 :

- 1) 2009年春の DICOM Standards Committee 開催国として意思表示し、承認された。開催に向けて対応体制準備が必要である。ちなみに DSC は年3回アジア、ヨーロッパ、北米で開催されることになっており、アジアでの開催は2007年・2008年と台湾・中国が開催国になっている。
- 2) ISO/TC215のリエゾンを正式に JAHIS 篠田氏から JIRA の DICOM 委員会に引き継ぐための手順確認と必要なアクションをとらなければならない。まず TC215の内容の十分な理解とリエゾンとしてのミッションを確認する必要がある。
- 3) DSC レベルではないが WG-6 で2バイトコード言語 (主にアジア言語圏) の扱いでポリシーが薄れつつあり、日本としてイニシアティブを取るべくコメント発行や規格修正で強気に働きかけて行く必要がある。
- 4) 近年の規格制定の動きに関して、システム部会の他の委員会も DICOM 規格に深く関係しており協調路線を張るべく JIRA 内の情報交換に努める。

JIRA 会員各社へのご協力お願い：

2009年春に予定されている日本での DSC 開催に向けて、DICOM 委員会は、率先して準備対応にあたりますが、皆様ご承知のとおり、国際標準化会議開催国としての責務には大きいものがあります。関係企業各位のご協力をあらためてお願いするしだいです。